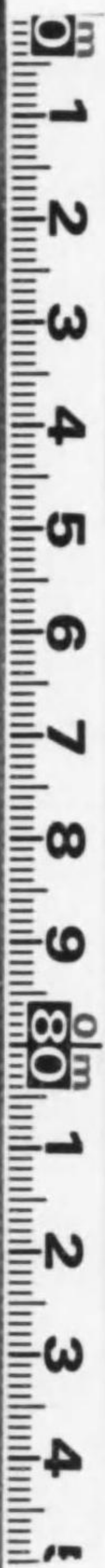


赤壁帖

特260

156



始



持26
156



赤璧帖



後赤壁賦

是歲十月之望步自
雪堂將歸于臨臯二
客從予過黃泥之坂

霜露既降木葉盡脫
人影在地仰見明月
顧而樂之行歌相答
已而歎曰有客無酒

有酒無肴月白風清
如此良夜何客曰今
者薄暮舉網得魚巨
口細鱗狀如松江之

鱸顧安所得酒乎歸
而謀諸婦曰我有
斗酒藏之久矣以待
子不時之需於是携

酒與魚復遊於赤壁
之下江流有聲斷岸
千尺山高月小水落
石出曾日月之幾何

而江山不可復識矣
予乃攝衣而上履巉
巖披蒙茸踞虎豹登
虬龍攀棲鶻之危巢

俯馮夷之幽宮蓋二
客不能從焉劃然長
嘯草木震動山鳴谷
應風起水涌予亦悄

然而悲肅然而恐凜乎
其不可留也反而登舟
放乎中流聽其所止而
休焉時夜將半四顧寂

寥適有孤鶴橫江東來
翅如車輪玄裳縞衣憂
然長鳴掠予舟而西也
須臾客去予亦就睡夢

一道士羽衣翩跹過臨
臯之下揖予而言曰赤
壁之遊樂乎問其姓名
俯而不答嗚呼噫嘻我

知之矣疇昔之夜飛鳴
而過我者非子也耶道
士顧笑予亦驚悟開戶
視之不見其處

後赤壁陸

是棗十月之望步自雪堂
始歸于詒舉二客送予過
黃泥之坂霜露沾降木葉盡
從人散在地仰見明月庭而

樂之何邪相答已而歎曰吾
客無酒吾酒豈有月白風清
如此良夜何客曰今在舊暮
乘艇得魚巨口細鱗狀如松
江之鱧廚安所得酒亦均而

謀諸婦媪曰敵吾斗酒飛之
久吾以待子不爾之需於是
携酒至魚復遊於赤壁之
下江流有聲斷岸子人山言
月小水落石出曾日月之來

河而江山不之復後予乃
拂衣而上履峻巖披藪菁
踞虎豹坐虬龍琴檠聽之
危巢俯汚夷之幽室蓋二客
不能送存焉然長嘯草木

震動山鳴若應風起如湧
予亦悄然而悲爾然而思深
亦去不之留也反而望舟楫
乎中流聽其亦止而休有時
夜相半四顧空寥適有孤

鶴橫江東來翅必平
鶴言紫綰衣憂然
長鳴掠予舟而西
也
以史家言予亦就
睡夢一道士羽衣
翩躚過法阜之
下揖予而言曰赤
壁之遊未

亦問其姓名俯而不
答
吟咏嘒嘒
豈有之乎
晴若之
夜飛鳴而過豈在
北子也耶
道士顧笑予亦驚
怪開左視之
不見其處

前赤壁賦

壬戌之秋七月既望蘇子與
客泛舟遊於赤壁之下清風
徐來水波不興舉酒屬客誦
明月之詩歌窈窕之章少焉

月出於東山之上裊裊於斗
牛之間白露橫江水光接天
縱一苇之泛如凌萬頃之茫
然浩氣如馮虛止風而水
去而山飄乎如遺世獨立羽

化而登僊於是飲酒樂甚扣
舷而歌之歌曰桂棹兮蘭槳
擊空明兮泝流光渺兮予懷
望美人兮天一方客有吹洞
簫在傍歌而和之其聲呜呜

三

然如怨如慕如泣如訴餘音
嫋嫋不絕如縷舞幽怪之潛
蛟泣孤舟之嫠婦蘓子愀然
正襟危坐而問客曰何為者
然也客曰月明星稀烏鵲南

三

飛此非曹孟德之詩乎西望
夏口東望武昌山川相繆鬱
采蒼之此北孟德之困於周
郎者乎方主破荆物以江陵
順流而東也舳艫千里檣旌

蒼雪磯酒臨江橫梁賦詩因
一世之雄也而今安在哉况
吾之子漁樵於江渚之上侶
魚鮪而友麋鹿駕一葉之扁
舟岸輒檣以相屬寄蜉蝣

於天地渺滄海之一粟衆兵
生之須臾漢長江之無窮控
苑仙以遨遊抱明月而長吟
去不可系誰得托遺響於照
風蘓子曰客亦去矣水去月

采逝者如新而未嘗往也
盈虛者如彼而卒莫消長也
蓋將自其變者而觀之則天地
曾不能以一瞬自其不變者
而觀之則物與我皆無所往也

而又何羨乎且夫天地之間
物各有主苟非吾之所有雖
一毫而不可取惟江上之清風
山間之明月可得之而為
聲目遇之而求色取之而禁

用之不竭是造物者之無盡
藏也而吾與子之所共適客
喜而笑洗盞更酌肴核既盡
杯盤狼藉右之枕藉亦舟中
不知東方之既白

赤壁陸を浮出

伴蒿蹊

七月望の夕さり友どちと船を浮
越く桂より大堰山のぼる吹く風
を涼きそのころ立つ波もなり杯
を来ぬくまらういづにをるぬをりに

青柳をうたふといふよりてるを死数の

ぬあてふのきはむの若く邪に

まかぬふくまひの中におひよ替る

ほろしたふのはのおんぬあてふ

みまかぬあふぬあてふあてふ

わが心はこころよき法代までふ
君をなまきくあしこころをわもたわ
まき志のまほやまなみもこあな舞
筑波嶽のこけもかのもに頼ちあはと
きみのきくひふまきさのひちたな

はくちぬの考のきみちはおちつそり
志るこころぬもたぬこころなしも
まひのねをぬこころ志吹く風を
ひふもかあやこころほくこころむ
ちちやうらこころまつりのひめ小松

あ代ふともま橋無我波羅く
子業まきくかきわらまつも今白よりは
きみふひのむくよら法もや西舞
善法のおもにてる月なみをこそふれを
こよひうあまの景中なりあふ

よきひせりともまゆらは源帥若
うしたにあらまや白河院この川ふ
御幸ましくく唐歌やまとうた
絲巾のみ法の御船糖ひ給ひく
各々其の業に堪慮する人を舟を

かちて景をさせしまひくさす源帥
後まつくまわり岸小橋はきく
つはれ若舟にまれよ勢多まへ空
招きまじしちるなりそのさえまた
あぐひあらぐをその人のまひは

うにあまの浦して君と我と今日
おの遊びをるもいはまきぐありと
おむべき身ぢ死なぬ薬をさす堂
の道なく死いせぬ水も名のみ流
まぬさは心のなげきを聲にもら

さねる聲をうりも取らぬ空なる
らむ晴さ波よ来る風の清らに
やもささらぬはきれあき可ふ
よらび目りたのしむとわづも
さむるそのたぐ用ひまでもつまず

君と我とにふたふたなりあら
おやこも笑ひくまたさらに杯を
ゆくらす確ひ志ましくも小舟の
中にねりりのめれををも
知らず

昭和三年十一月

岡田起作書

岡田起作先生編書目錄

草

菊判函入特製
紙數二百八十頁

定價金貳圓
郵税金十錢

海

元

和裝大判
全一冊

定價金七十錢
郵税金六錢

亨

帖

赤

和裝大判
全一冊

定價金七十錢
郵税金六錢

壁

帖

か

和裝大判
全一冊

定價金七十錢
郵税金六錢

な

帖

發行所

三成社書店

昭和四年三月二十日印刷
昭和四年三月廿五日發行

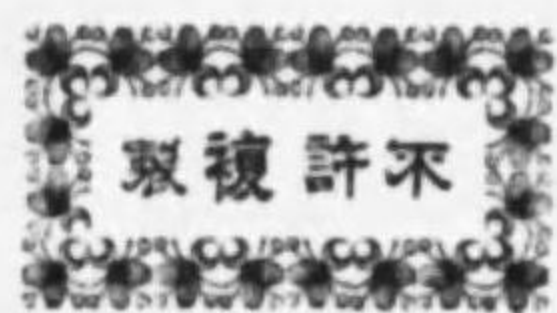
定價金七拾錢

編書者 岡田起作

發行者 小澤寬

印刷者 東郷清人

發行所 三成社書店



東京府北豊島郡巢鴨町平松
壹千壹百九十四番地

振替東京四八七八番

發賣所

東京市本郷區合資
彌生町三番地 文化書房

振替東京二五四七三番

所刷印小 所刷印

322
117

終

